

# 第87期 報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで



# 素材を創造させる“塗”

私たちヒラノテクシードは1935年の創業以来、熱と風の技術を追求し、“塗”技術を融合させ、時代の流れの中で進化する、素材を化学し、高品質並びに高付加価値の製品を生み出す設備を提供する『コーティング装置のトップ企業』として成長してまいりました。

薄型テレビや携帯電話、さらには太陽電池や燃料電池等さまざまな製造現場を支えるのが当社の技術です。

先端技術

コア  
テクノロジー

主力商品

ヒラノグループ

株式会社ヒラノテクシード  
ヒラノ技研工業株式会社  
株式会社ヒラノエンテック  
ヒラノ光音株式会社

FPD用光学機能性フィルム

フラットパネルディスプレイには、さまざまな機能性フィルムが使われています。当社は近年大型薄型テレビで脚光を浴びている液晶並びにPDP用ディスプレイパネルの中核を占める偏光板フィルム、反射防止フィルム、光拡散フィルム、電磁波防止フィルム、保護フィルム等の“機能性フィルム”を生産する精密クリーンコータを製造しております。



ディスプレイの前面板に貼り、画面の表面反射・映り込みを抑え、反射光を低減する反射防止フィルム等

塗  
工  
機  
素材に多様な機能を持たせる

化学物質を素材に塗り、“薄い膜”を形成すると、素材だけでは不可能な多彩な機能を付加できます。

例えば、液晶やプラズマのFPD（フラットパネルディスプレイ）。フィルムに薄い膜をつくり、それを数種類貼り合わせることで、鮮明な画像が生まれます。この“膜をつくり”“貼り合わせる”のが当社の「塗工機」の役割です。



## 目立たないけれど、大切な仕事

“商品”は知っているけれど“どのような”道具で“どのように”つくられているかは、意外と知らないものです。当社では、創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術【乾燥技術】に【コーティング技術】【ラミネーティング技術】【制御技術】を融合させ、お客さまに高精度な機械を提供し、数多くの商品の製造において重要な部分を担い社会に貢献してまいりました。

そして今、私たちはエネルギー分野を中心に環境に貢献すべく取り組

# と“乾”の技術

## フレキシブル基板（FPC）

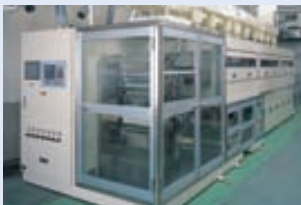
携帯電話に代表されるモバイル端末は近年、薄型・軽量化が急速に進んできました。また、自動車関連でも耐熱性や屈曲性が厳しく要求されます。当社では、これらの分野に使用されるフレキシブル基板の原反となるポリイミドフィルムの成膜装置や、そのフィルムと銅箔などを張り合わせる機械を製造しております。



ポリイミドフィルムに銅箔を張り合わせてできたフレキシブル基板

## 薄膜成型装置 高品質のフィルムを生み出す

液晶・プラズマ・携帯電話などの電子回路のコア部品、フレキシブルプリント基板。この基板の元となる、極めて薄いポリイミドフィルムをつくるのが、当社の「薄膜成型装置」です。フィルムの厚さや品質の均一性が重要となるこの分野で、当社の装置は高い評価を得ています。



み、またさまざまな素材の製造プロセスに貢献すべく技術開発を行っております。

「エレクトロニクス」「高分子化学」「包装」「医療」「産業新素材」等、あらゆる分野において“塗る”“貼る”“乾燥する”“成膜する”という技術で当社の機械が係わっております。

目立たないけれど、大切な仕事です。



## 株主の皆さまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度の東日本大震災により被災されました株主の皆さまには、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

さて、第87期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の決算を終了いたしましたので、その概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

取締役社長

三浦 日出男

# 事業の概況

Review of Operations

## 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、中国・アジアを中心とした新興国の景気拡大に先導され、生産の回復、設備投資需要の増加など企業収益に改善が見られましたが、政府の景気刺激策の縮小や急激な円高により、輸出産業を中心として企業収益の改善が鈍化するなど依然厳しい状況下で景気の先行きが不透明なまま推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、温暖化や化石燃料の枯渇など地球環境を取り巻く様々な問題が叫ばれる中において前期に引き続き環境エネルギー分野及び電気・電子部材関連に注力いたしました。売上高につきましては、リチウムイオン電池向けの電極塗工装置並びに薄膜成形装置を中心に、また、利益面におきましても生産性の向上によるコストダウン効果もありそれぞれ大きく改善いたしました。

その結果、売上高は17,391百万円（前期比24.3%増）となり、利益面では経常利益1,703百万円（前期比108.4%増）を計上し、当期純利益は967百万円（前期比70.5%増）となりました。

受注残高につきましても、リチウムイオン電池向け電極塗工装置や電気・電子部材関連装置を中心に改善し、19,534百万円（前期末比145.0%増）、うち国内は11,226百万円（前期末比120.0%増）、輸出は8,307百万円（前期末比189.6%増）となりました。

次期の見通しにつきましては、為替動向や東日本大震災の影響による企業活動の低迷や個人消費の冷え込みで経済の先行きは不透明な状況にあります。当社におきましても、生産設備投資需要の動向や部品調達の滞り等が懸念されます。

このような状況のもと「経営環境の変化に迅速に対応」し、より強固な経営基盤を築くとともに、新しい技術・新しい製品をお客様に提供すべく邁進してまいります。

現段階での次期連結売上高は22,000百万円、連結経常利益は1,100百万円、連結当期純利益は650百万円を見込んでおります。

## 対処すべき課題

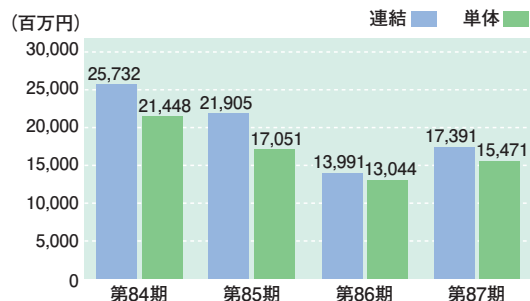
今後の見通しにつきましては、不安定な金融情勢に加えて東日本大震災の影響により、多くの企業で新規設備投資計画を延期または凍結する可能性もあり、設備業界にとっては不安定な状況にあります。当社グループにおきましても生産設備投資需要は不透明であります。

このような状況のもと、市場環境の変化に柔軟に対応すべく、ニーズを的確にとらえ新たなコーティング技術を確認してまいります。当社はナノテクノロジー分野へ、高クリーン・超薄膜・ウェット&ドライ等の技術を提供すべく生産並びに研究開発環境の整備に向けた投資を行ってまいります。

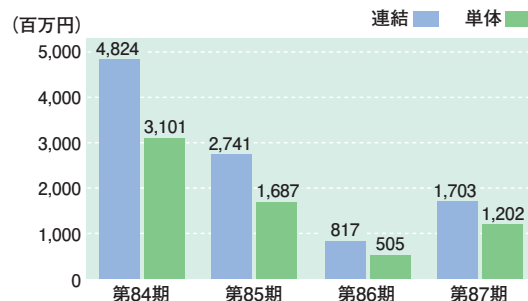
# 業績ハイライト

Financial Highlights

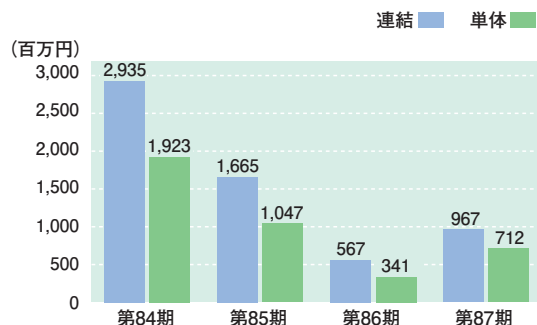
## 売上高



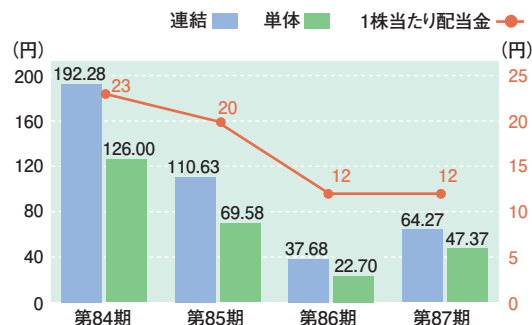
## 経常利益



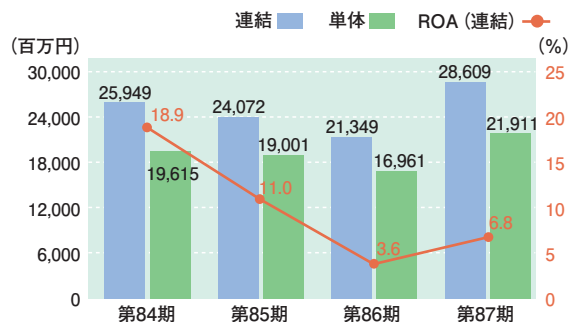
## 当期純利益



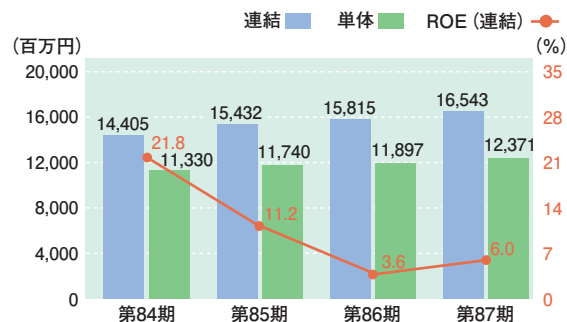
## 1株当たり当期純利益 / 1株当たり配当金



## 総資産 / ROA



## 自己資本 / ROE



# セグメントの状況

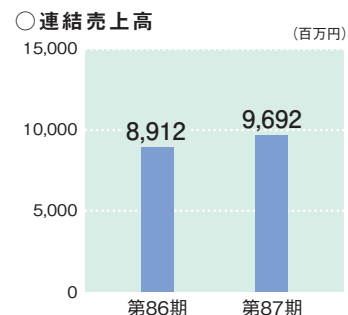
Segment Report

## 塗工機関連機器

各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



塗工機

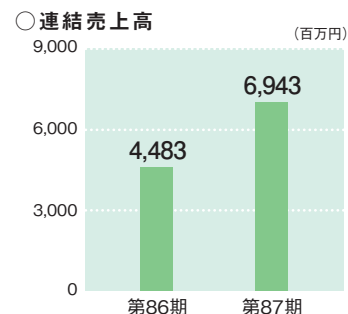


## 化工機関連機器

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置、真空蒸着装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

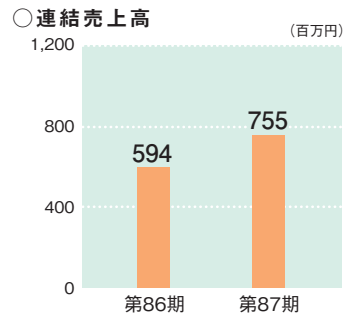


薄膜成型装置

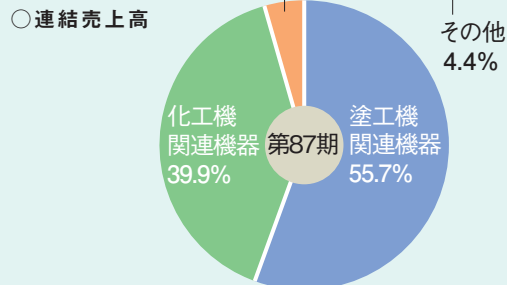


## その他

染色整理機械装置、各種関連機器の部品の製造及び修理・改造等



## セグメント別構成比



## 環境エネルギー分野への取り組み

フレキシブル太陽電池やリチウムイオン二次電池。ヒラノテクシードは、高精度な塗工・乾燥装置で環境エネルギー分野に貢献しております。



第4回国際太陽電池展

### フレキシブル太陽電池

真空技術の研究開発に取り組み、「真空下で成膜させ、フィルムを低張力で安定的に走行させる」という独自技術を確立しております。

その、ロールtoロール塗工設備の技術と経験を生かし、金属箔やプラスチックフィルムを使用したフレキシブル太陽電池市場では、スパッタリングや蒸着装置を主力に、Wet & Dry塗工の試作設備から量産設備を提供しております。

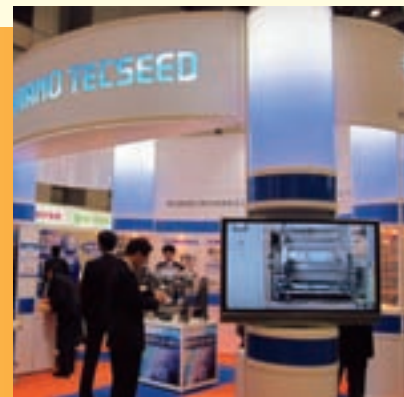
### リチウムイオン二次電池

携帯電話、PCなどのモバイル系からハイブリッド、電気自動車などの環境対応車、各種産業機械などあらゆる分野、そしてLiC（リチウムイオンキャパシター）に世界各国で豊富な実績を有しているヒラノテクシードの正極・負極用コータ。

日本発のリチウムイオン電池開発の当初から実績を積み上げてきた塗工機は、この先環境エネルギー分野の様々なシーンで活躍します。



リチウムイオン電池  
正極間欠塗工サンプル



第2回国際二次電池展

# 連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第86期 (平成22年3月31日現在)	第87期 (平成23年3月31日現在)
資産の部	21,349	28,609
point 1 流動資産	17,127	24,115
固定資産	4,222	4,493
有形固定資産	2,861	2,880
無形固定資産	189	128
投資その他の資産	1,171	1,484
資産合計	21,349	28,609
負債の部	5,534	12,065
point 2 流動負債	4,312	10,703
固定負債	1,222	1,361
純資産の部	15,815	16,543
株主資本	15,634	16,433
資本金	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339
point 3 利益剰余金	12,849	13,651
自己株式	△402	△405
その他の包括利益累計額	180	109
その他有価証券評価差額金	180	109
負債純資産合計	21,349	28,609

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第86期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	第87期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	13,991	17,391
売上原価	11,711	13,969
売上総利益	2,279	3,422
販売費及び一般管理費	1,500	1,793
営業利益	779	1,628
営業外収益	61	91
営業外費用	23	16
経常利益	817	1,703
特別利益	52	2
特別損失	9	22
税金等調整前当期純利益	861	1,683
法人税・住民税及び事業税	262	753
法人税等調整額	31	△37
少数株主損益調整前当期純利益	—	967
当期純利益	567	967

point  
1

### 流動資産

流動資産は前連結会計年度末に比べ6,987百万円増加し24,115百万円となりました。その主な要因は受取手形及び売掛金が885百万円、有価証券が2,458百万円増加したこと並びに受注量の増加により仕掛品が3,599百万円増加したことによります。

point  
2

### 流動負債

流動負債は前連結会計年度末に比べ6,391百万円増加し10,703百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が4,733百万円、前受金が651百万円、それぞれ増加したこと及び未払法人税等が627百万円増加したことによります。

point  
3

### 利益剰余金

当期純利益が967百万円計上されております。



## 連結株主資本等変動計算書

第87期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の 包括利益累計額	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
平成22年3月31日残高	1,847	1,339	12,849	△ 402	15,634	180	15,815
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 165		△ 165		△ 165
当期純利益			967		967		967
自己株式の取得				△ 2	△ 2		△ 2
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△ 70	△ 70
連結会計年度中の変動額合計	—	—	801	△ 2	798	△ 70	728
平成23年3月31日残高	1,847	1,339	13,651	△ 405	16,433	109	16,543

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第86期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	第87期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
point 4 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,011	3,201
point 5 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 701	△ 4,981
point 6 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 498	55
現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	1,810	△ 1,724
現金及び現金同等物の期首残高	8,533	10,344
現金及び現金同等物の期末残高	10,344	8,620

point  
4

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは前期比190百万円増加し3,201百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が1,683百万円になったこと及び、売上債権が233百万円、たな卸資産が3,606百万円、仕入債務が4,708百万円、未払金が287百万円それぞれ増加したこと、法人税等の支払額135百万円、法人税等の還付額が245百万円発生したことによります。

point  
5

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によって使用されたキャッシュ・フローは前期比4,279百万円増加し4,981百万円となりました。これは主に、4,123百万円の有価証券の取得による支出を行ったことによります。

point  
6

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によって得られたキャッシュ・フローは55百万円となりました(前期末は498百万円の支出)。これは主に、長期借入金の約定弁済を475百万円行う一方、長期運転資金確保のため長期借入金金を700百万円実施したこと、また、配当金の支払を166百万円行ったことによるものであります。

# 財務諸表

Non-consolidated Financial Statements

## 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第86期 (平成22年3月31日現在)	第87期 (平成23年3月31日現在)
<b>資産の部</b>	<b>16,961</b>	<b>21,911</b>
流動資産	13,109	17,735
固定資産	3,851	4,176
有形固定資産	2,467	2,526
無形固定資産	132	78
投資その他の資産	1,252	1,571
資産合計	16,961	21,911
<b>負債の部</b>	<b>5,063</b>	<b>9,540</b>
流動負債	4,006	8,313
固定負債	1,057	1,227
<b>純資産の部</b>	<b>11,897</b>	<b>12,371</b>
株主資本	11,717	12,261
資本金	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339
利益剰余金	8,932	9,479
自己株式	△ 402	△ 405
評価・換算差額等	180	109
その他有価証券評価差額金	180	109
負債純資産合計	16,961	21,911

## 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第86期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	第87期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	13,044	15,471
売上原価	11,360	12,837
売上総利益	1,684	2,634
販売費及び一般管理費	1,218	1,507
営業利益	465	1,126
営業外収益	59	90
営業外費用	20	14
経常利益	505	1,202
特別利益	52	1
特別損失	9	22
税引前当期純利益	548	1,181
法人税・住民税及び事業税	174	510
法人税等調整額	33	△ 41
当期純利益	341	712

## 配当のお知らせ

当社グループは、株主各位への配当金は、企業の収益状況により決定するものと考えており、安定的な配当の維持を基本としております。

内部留保資金につきましては、長期的展望に立った新規技術の開発・事業の拡大及び経営体制の効率化・省力化の為の基礎資金として充当し、企業体質と企業競争力の強化に取り組んでまいります。

当期の利益配当金につきましては、この基本方針に基づき1株当たり7円（中間配当金5円と合わせて、年間配当金は1株当たり12円）とさせていただきます。

# 会社の概況

Company Information

(平成23年3月31日現在)

社名	株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	231名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441
インターネット ホームページ	<a href="http://www.hirano-tec.co.jp/">http://www.hirano-tec.co.jp/</a>

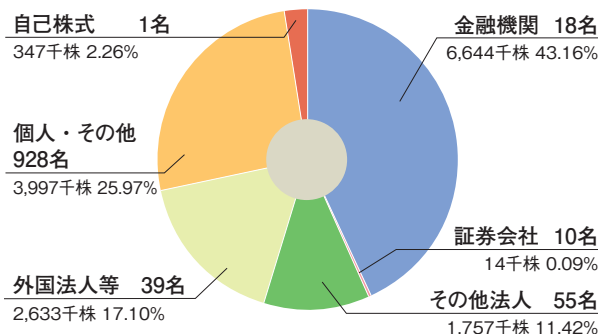
## 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	1,051名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.64
ヒラノ会	1,147	7.62
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社 (信託口)	1,004	6.67
伊藤忠商事株式会社	1,000	6.65
オーエム04エスエスビー クライアントオムニバス	999	6.65
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	765	5.08
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.90
株式会社りそな銀行	731	4.86
ザチエースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント	496	3.30
メロンバンクエービーエヌアムロ グローバルカストディエヌブイ	302	2.01

(注) 1. 上記の他、自己株式数347,902株を保有しております。  
2. 出資比率は自己株式数を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況



## 役員

取締役社長 (代表取締役)	三浦 日出男
常務取締役	馬場 英樹
常務取締役	松葉 茂美
取締役	桑原 茂
取締役	入江 伸晶
取締役	定安 一男
取締役	松本 剛
常勤監査役	高田 賢
監査役	長谷川 義起
監査役	高谷 和光

(注) 監査役長谷川義起氏並びに高谷和光氏は、社外監査役であります。

## 子会社

ヒラノ技研工業株式会社 (産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノエンテック (繊維機械等部品製造)
ヒラノ光音株式会社 (理化学機器製造)

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話（通話料無料）：0120-094-777
上場証券取引所	大阪証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話（通話料無料）：

0120-244-479（本店証券代行部）

0120-684-479（大阪証券代行部）

インターネットホームページ：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ぜひご活用ください。



この報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。